

ホワイトペーパーシリーズ :

NAS

(Linuxベースモデル)

Amazon S3連携手順書

2021年8月

本文書は、株式会社アイ・オー・データ機器（以下、「アイ・オー・データ」とします。）が、アイ・オー・データの特定の商品に関する機能・性能や技術についての説明を記述した参考資料となります。当該商品の利用という目的の範囲内で自由に使用、複製をしていただけますが、アイ・オー・データの事前の書面による承諾なしに、改変、掲示、転載等の行為は禁止されます。また、あくまで参考資料として提供いたしますので、内容については一切保証を致しかねます。以下の内容をご了承いただいた場合のみご利用ください。(1)アイ・オー・データは、本文書によりいかなる権利の移転もしくはライセンスの許諾、またはいかなる保証を与えるものではありません。(2)アイ・オー・データは、本文書について、有用性、正確性、特定目的への適合性等のいかなる保証をするものではありません。(3)アイ・オー・データは、本文書を利用したこと、または利用しなかったことにより生じるいかなる損害についても責任を負うものではありません。(4)アイ・オー・データは、本文書の内容を随時、断りなく更新、修正、変更、削除することがあります。最新の商品情報については、<https://www.iodata.jp/>をご覧ください。

◆本手順書の紹介内容

業務データの管理を一手にお任せ！あんしんNAS



◆本書ではBCP対策（Business Continuity Plan、業務継続計画）の一環として「HDL2-HAシリーズ（以下NAS）」のデータをアマゾンウェブサービス社製・有償クラウドストレージサービス「Amazon S3」（以下Amazon S3）にバックアップするための手順を記しています。



◆本書は、NASを初期導入する場合の基本設定についても記載しています。シンプルな記載に徹する為、最低限の設定のみとなっています。その他の設定につきましては、NASのマニュアル等をご参照下さい。

◆上記以外のIODATA製NAS（HDL-XA・HDL-AAXWシリーズ）についても設定方法は同じとなりますので、本手順書をご参考ください。

☆本設置手順書は、NASのファームウェアバージョン『v1.01』を用い、2021年8月1日現在の情報を元に作成しています。あらかじめご了承ください。

◆はじめに

NASの詳細な設定を行う場合、取扱説明書をご参照下さい。

☆初回設定マニュアル

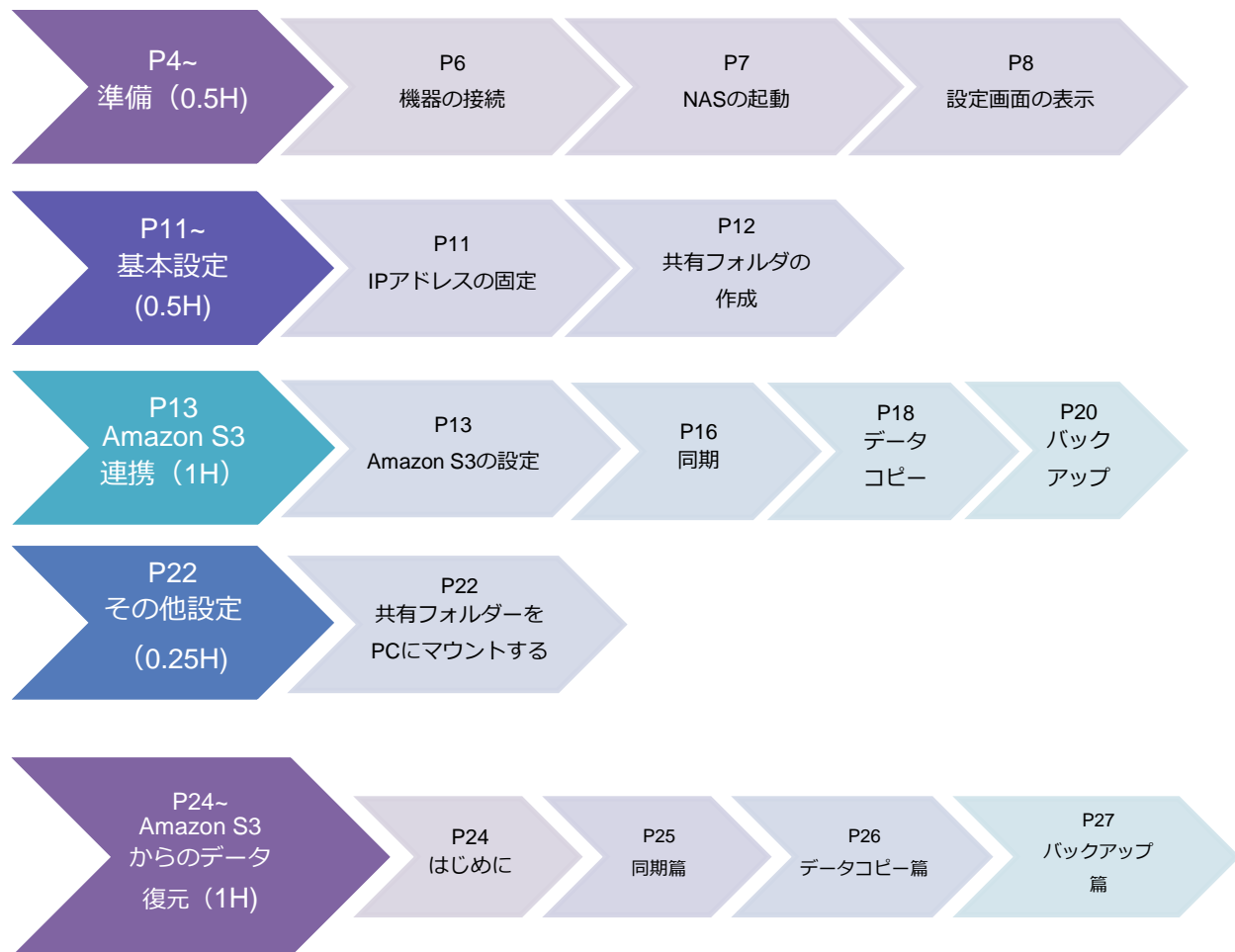
https://www.iodata.jp/lib/manual/pdf2/hdl2-ha_shokai.pdf

☆詳細ガイド

https://www.iodata.jp/lib/manual/hdl-ha_manual/index.html

(NAS内共有フォルダー[LAN DISK Manual]フォルダにもございます。)

◆設定フローと作業時間



～あらかじめご確認ください～

本構成は「最低限の安心」を揃えるものですが、100%の安全を保証するものではありません。予め下記事項をご了承下さい。

- ◆PCと同様に使用環境によってはNASの速度低下、フリーズ等が生じる場合がございます。
- ◆データの保全を保証するものではありません。
必要に応じて外付けHDDなどへのバックアップ等をご検討下さい。
- ◆Amazon S3は、データの保存量、データの移動量に応じてご利用料金変動します。
- ◆クラウドストレージサービス（Amazon S3）から、NASにデータを復元する際は、復元するデータ量に相応した時間がかかります。

※他免責事項については各商品,サービスのマニュアル等をご参照下さい。

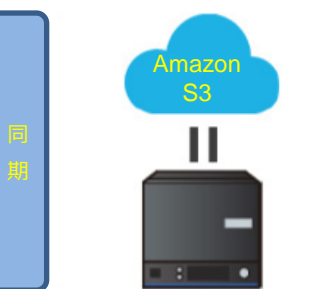
本手順書の概要・注意事項



BCP対策としてNASのデータをクラウドサービスに避難

- NAS上の共有フォルダー内データを、「Amazon S3」にバックアップ
- お客様の利用実態に合わせて、「同期」「データコピー」「バックアップ」が選択可能

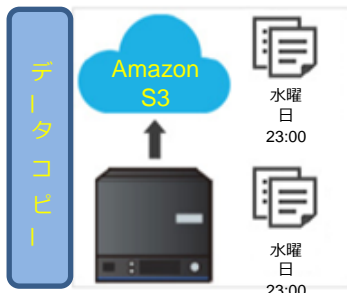
◆ 設定可能なNASとAmazon S3との組み合わせ



「NASの共有フォルダー」（以下「共有フォルダー」）と「Amazon S3上のバケット」（以下「バケット」）を同じ状態にします。

- 同期では、設定した間隔で双方のデータのタイムスタンプを比較し、新しいものの上書きします。
本手順書では、共有フォルダーからバケットへの片方向同期を記載しています。

設定手順については[P16](#)をご覧ください。



共有フォルダーとバケットを決められたスケジュールで同じ状態にします。

- データコピーでは同期と同じく、双方のデータのタイムスタンプを比較し新しいものの上書きしますが、データコピーでは「共有フォルダーからバケットへのデータコピー」だけでなく「バケットから共有フォルダーへのコピー」も可能です。

設定手順については[P18](#)をご覧ください。



スケジュールを設定し、共有フォルダーにあるデータをバケットにバックアップ、またはその逆ができます。

- データ更新に関わらず**フルバックアップ**を行い、履歴として過去のバックアップデータを保持します。

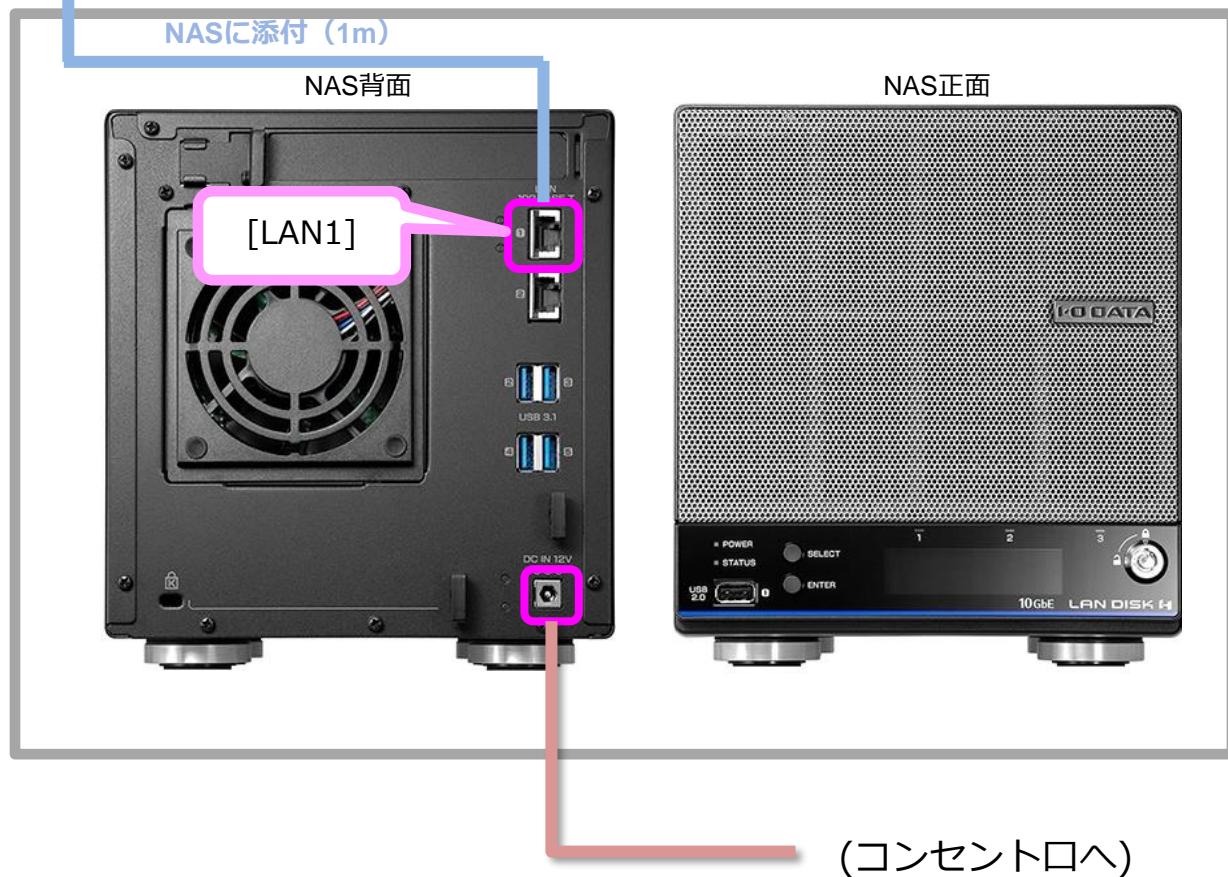
設定手順については[P20](#)をご覧ください。

準備-機器の接続

ルーター

LANハブ

※社内ネットワークがインターネットに接続されている事が前提です。
 ※本書はIPv4のネットワーク環境である事を想定しています。
 (本書では記載しません。)



— LANケーブル

— 電源ケーブル

- ①上記の通り接続します。それまでは電源を入れないで下さい。
- ②接続完了後、NASの電源をONにします。
(NASの電源ONについては次ページを参照)

準備-NASの電源起動



電源を起動するために、フロントパネルを取り外す必要があります。

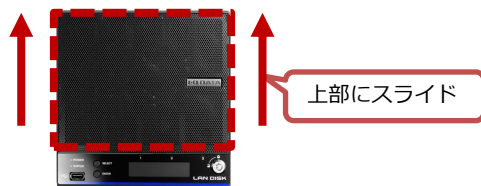


本体持ち運び時はフロントパネル側に手をかけないでください。フロントパネルが外れて製品が落下することがあるため、危険です。

- ①キーロックを開錠（アンロック）



- ②フロントパネルを取り外す



- ③POWERボタンを押し、数分後にSTATUSランプが緑点灯することを確認



- ①POWERボタンを押す



- ③STATUSランプの緑点灯を確認

- ②フロントパネルを取り付けてキーをロック（施錠）



- 右に回転

参考：NASの電源の切り方

- ① POWERボタンを1回(シャットダウン処理が始まります)
- ② ランプが点滅し、消灯することを確認します。



POWERボタンは長押ししないでください

強制的に電源を切った状態になり、再起動後にボリューム再構築が発生したり、故障やデータ消失の原因となります。



準備-NASのホーム画面の起動

設定用PCの条件をご確認ください。

- ・NASと同一のネットワークに接続されていること
- ・NAS・設定用PC共にインターネット接続が可能なこと
- ・右ブラウザのいずれかが利用可能なこと

【NASの設定に対応するブラウザ】

Microsoft Edge 41
Internet Explorer 11
Google Chrome 40
Safari 12

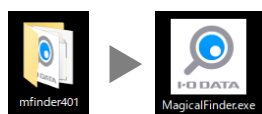
※本書はWindows 10・Microsoft Edge 41での設定を想定しています。

- ① アイ・オー・データ機器のホームページ (<https://www.iodata.jp>) より設定用PCのOSに合わせたバージョンのMagical FinderをPCにダウンロードしプログラムを実行



Magical Finder入手はI-O DATAホームページで「3022」を検索してください。

- ② 設定用PCのデスクトップに作成されたフォルダー「mfinderXXX (XXXは数字)」から「MagicalFinder.exe」を実行

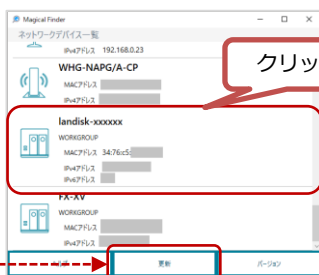


「Magical Finderの利用に関しては、下記をご一読ください。」と表示されたら

「はい」をクリックしてください。



- ③ 「landisk-xxxxxx」をクリック



Magical Finderで「landisk-*****」が複数検出される場合は？

NAS背面にあるMACアドレスを確認して判別してください。

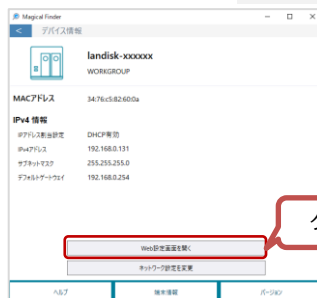


MACアドレスの記載場所
(LANポートが複数存在するNASの場合は「LAN1」と書かれているものを確認)

本製品が見つからないときには、30秒ほど待ってから、[更新]ボタンをクリックしてください。

例：MACアドレスが「3476C5XXXXXX」の場合
⇒HDL-HAシリーズの名前は「landisk-XXXXXX」

- ④ [Web設定画面を開く] をクリック



ブラウザが起動し、NASのメニュー画面が表示されます。

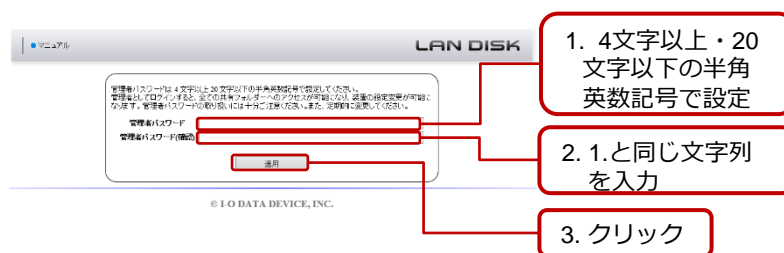
- ⑤[管理者ページ]をクリック



- ⑥ユーザー名に[admin]と入力して[ログイン]をクリック



- ⑦[管理者パスワード]を決めて入力

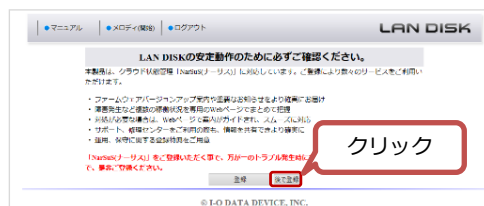


今後⑥の画面では、⑦で設定したパスワードの入力が求められます。また、今後の画面で管理者パスワードを求められたときにはこの項で設定した管理者パスワードを入力してください。

- ⑧[初期設定]のページでは[初期設定を保持する]をクリック



- ⑨[NarSuS]登録ページでは[後で登録]をクリック
※NarSuSは後で設定します。



クリックの後、「情報の自動発信」の画面が表示されたら

内容を確認していただき、問題がなければ承諾にチェックを入れて[次へ]をクリックしてください。

【NASのホーム画面】

LAN DISK

●マニュアル | ●メロディ(開始) | ●ログアウト

通知

- なし

LAN DISKの名前	landisk-
バージョン	1.00
IPアドレス	192.168.10.2
MACアドレス	34:76:c5
RAIDの状態	正常動作
使用容量/全容量	1 / 990 (GB)

ホーム

戻る 全ヘルプ ヘルプ有

情報・ログ表示 ネットワーク 共有 ユーザー&グループ ポリシー データバックアップ

一括登録 システム かんたん設定 ウィルス対策

© I-O DATA DEVICE, INC.

↑↑↑NASのホーム画面が表示されました↑↑↑

◆ 次ページ以降の設定における注意事項



前ページから続けて作業をされる方は「ホーム画面」に戻ってください

左記のアイコンが表示されている時は、設定画面のホームボタンをクリックしてください。

ホームボタン



管理者ユーザー名
パスワード

左記のアイコンが表示されている時は、ユーザー名「admin」とP9の⑦で決めたパスワードを入力してください。

LAN DISK

管理者ユーザー名

管理者パスワード

ログイン

© I-O DATA DEVICE, INC.

IPアドレスの固定

IPアドレスの設定を行います(DHCP(IP自動取得)の場合は本設定は不要)

注! ここで設定を間違えるとNASがインターネットと通信できなくなり、クラウド連携、ウイルス対策機能、不具合通知(NarSuS)等が機能しません。

事前にこちらの項目を確認ください(設置場所のネットワークによります)

・IPアドレス ・サブネットマスク ・デフォルトゲートウェイ ・DNSサーバー

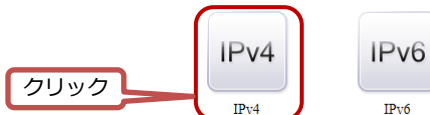
① 「ネットワーク」 をクリック



② 「LAN1」 をクリック



③ 「IPv4」 をクリック



④ 「IPアドレス」「サブネットマスク」「デフォルトゲートウェイ」を入力

下記の設定を割り当てたときの入力例：

NASのIPアドレス

192.168.0.100

サブネットマスク

255.255.255.0

デフォルトゲートウェイ/DNSサーバー

192.168.0.254

1. 「手で設定する」をクリック

2. 「IPアドレス」「サブネットマスク」を入力する

3. 「手で設定する」を入力する

4. 「LAN 1」をチェック

5. 「デフォルトゲートウェイ」「DNSサーバー」を入力

6. 上記内容を入力し終わったら [適用] をクリックする

IPv4	
IPアドレス設定方式	<input type="radio"/> 自動で取得する(DHCP) <input checked="" type="radio"/> 手で設定する
IPアドレス	192.168.0.100
サブネットマスク	255.255.255.0
フレームサイズ	1500 <small>リストから選択</small>
Wake On LAN	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効
共通設定	
設定方法	<input type="radio"/> 自動で取得する <input checked="" type="radio"/> 手で設定する
優先インターフェイス	<input checked="" type="radio"/> LAN1
デフォルトゲートウェイ	192.168.0.254
DNSサーバー	192.168.0.254

⑤ 次画面で内容を確認し「適用」をクリック

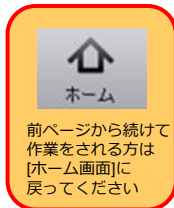
⇒IPアドレスが更新される為、再度Magical Finderから設定画面を起動します。

以上をもってIPアドレスの固定設定は完了です。

共有フォルダーの作成

初期設定状態では共有フォルダーとして[disk1]が1つありますが、ここでは新規作成方法を記載します。

(注) [disk1]の出荷時設定は、管理者のみアクセス可能となっています。(詳細アクセス権有効、かつユーザー登録がない状態)



本項はあくまでWindows PCから【利用者制限】をかけない共有フォルダーの作成となります。【利用者を限定】する共有フォルダの作り方および詳細設定につきましてはNAS添付のマニュアルをご参照下さい。

① [共有]をクリック



② [フォルダー]をクリック



③ [追加]をクリック



④ [共有フォルダー] (ここではfolder1) を作成

追加

名前	folder1	<div style="border: 1px solid red; padding: 5px;"> <p>1.[folder1]と入力</p> </div>
コメント		

基本設定

- 読み取り専用
- 非登録ユーザーからのアクセスを拒否
- AppleShareネットワーク共有
- FTP共有
- Microsoftネットワーク共有
 - ゴミ箱
本機能を有効から無効にする場合、ゴミ箱用フォルダーが削除されます。
ゴミ箱用フォルダーに大量のファイルが存在する場合、ゴミ箱用フォルダーの削除に時間がかかります。
 - 隠し共有
- 使用量制限値 GB
小数点第一位で入力してください。

共有フォルダーの使用量制限機能を使用する場合、ファイル・フォルダー毎のアクセス権設定は無効になります。

詳細アクセス権

有効 無効

2.必要に応じチェック

3.【無効】をクリック

4.クリック

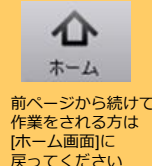
アクセス制限をかけたい場合、あらかじめユーザー名/パスワードを登録しておく必要があります。(今回の設置手順書では記載しません)

以上をもって共有フォルダー作成は完了です。

12

Amazon S3連携

- 本項目はNASと、Amazon S3を連携させるための手順説明となります
- Amazon S3連携機能は、署名バージョン2のみに対応しています。一部の署名バージョン4を必要とするリージョンには対応していません。
- Amazon S3のGlacierストレージクラスには対応していません。
- Amazon S3は保存容量・通信量に応じて課金されます。頻繁に更新されるデータがある場合、請求額が大きくなる場合があります。Amazon S3ご契約サイトなどで料金を確認しながら運用することをおすすめします。
- 本設定の手順は下記の条件を前提としています。
 - ・NASがインターネットに繋がる環境であること。
 - ・NASのファームウェアが最新であること。
 - ・既にNAS側で同期元となる共有フォルダ作成済みであること。
 - ・既にAmazon S3を契約し、同期先のバケットを作成済みであること。



◆ NAS・Amazon S3連携の流れ

以下の流れで「NAS・Amazon S3連携」のための設定をおこないます。

※下記設定は、Amazon S3と連携させる共有フォルダをNASに作成してから行ってください。

- (1) システム管理者より、Amazon S3連携に必要な情報を確保
以下のAmazon S3側の情報をシステム管理者様よりヒアリングしてください。

- アクセスキー
 - シークレットキー
 - バケット
- ・・・ Amazon S3におけるユーザー名のようなもの
 - ・・・ アクセスキーのパスワードのようなもの
 - ・・・ Amazon S3側に設置したデータの保存先

- (2) NASに対して、Amazon S3連携パッケージの追加と接続設定を実施
⇒ [P14](#)をご参照ください。

- (3) NASとAmazon S3との連携方法（同期／データコピー／バックアップ）を選択し、NASにそれぞれ設定

- ・同期／データコピー／バックアップの特長につきましては、[P5](#)をご覧ください。
- ・各種設定方法につきましては以下のページで紹介しています。
 - 同期 ⇒ [P16](#)を参照
 - データコピー ⇒ [P18](#)を参照
 - バックアップ ⇒ [P20](#)を参照

終了

参考情報：Amazon S3連携は、外付HDDによる世代バックアップとの併用運用をお勧めします。

NASの共有フォルダ⇒Amazon S3のバケット間を同期で運用なされていると短い更新間隔でデータがAmazon S3に同期されるため、意図しない大量のファイル書き換えが起きた場合（特にランサムウェア被害）、書き換え前のデータ救出が行えなくなる可能性がございます。

大量のファイル書き換えによる被害を最小限に防がれるのであれば、NAS・外付HDD（USB接続のハードディスク）を組み合わせた世代バックアップとの併用運用をお勧めいたします。



■(同期・データコピー・バックアップ共通)パッケージの追加と接続設定

- NASに追加するパッケージは「クラウドストレージ連携」ではなく、「Amazon S3連携機能」です。ご注意ください。



ホーム

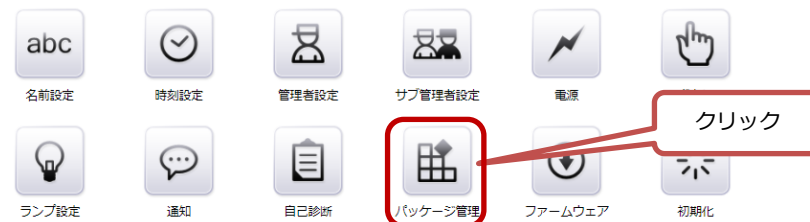
前ページから続けて作業をされる方は
[ホーム画面]に戻ってください

Amazon S3連携パッケージのNASへの追加 (インターネット環境必須)

- ① [システム]をクリック



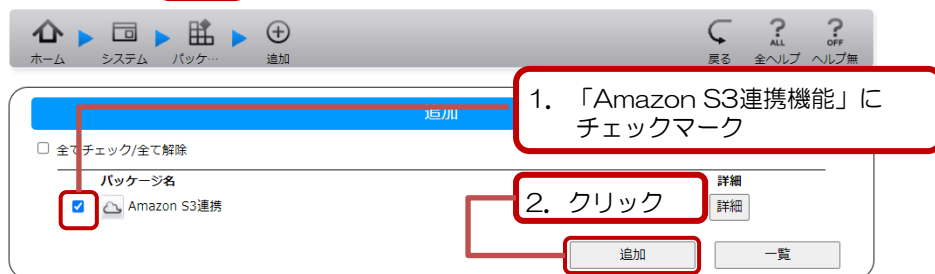
- ② [パッケージ管理]をクリック



- ③ [追加]をクリック



- ④ [Amazon S3連携機能]を追加



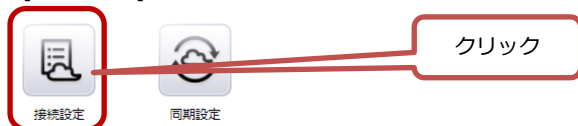
以上をもってAmazon S3連携パッケージがNASに組み込まれました。
引き続き、Amazon S3への接続設定をおこないます。

Amazon S3への接続設定をする

- ① [クラウドストレージ]をクリック



- ② [接続設定]をクリック



次ページに続く

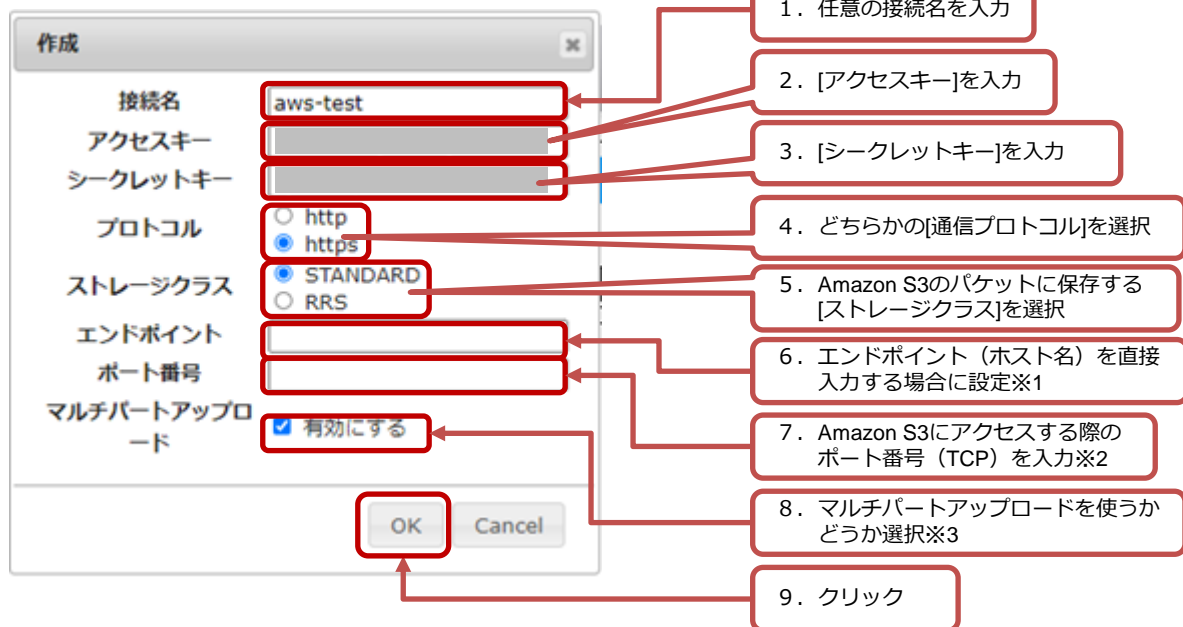
③ [Amazon S3]をクリック



④ [追加]をクリック



⑤ Amazon S3の接続設定をする



※1 空白の場合は、Amazon S3のエンドポイントが利用されます。

※2 空白の場合は、④で選択したプロトコルにより、下記特定のポート番号を使用します。

●httpの場合→[80]

●httpsの場合→[443]

※3 ファイルサイズが100MB未満の場合、マルチパートアップロードには使用しません。5GB以上のファイルをアップロードする場合、必ずチェックを入れてください

⑥ 接続テストを実施



接続テストをクリックして、「接続テスト成功」と表示されることを確認してください。

「接続テスト失敗」と表示された場合は、⑤の項目の設定情報が正しいかをご確認ください。



以上をもって「Amazon S3連携パッケージの追加と接続設定」は完了です。

■ 共有フォルダーとAmazon S3の片方向同期

同期設定後は、ファイル更新検知時に随時Amazon S3にファイルがアップロードされます。

本項では、NAS内の共有フォルダー「folder1」のデータを、Amazon S3のバケットに対してアップロードする片方向同期について説明します。



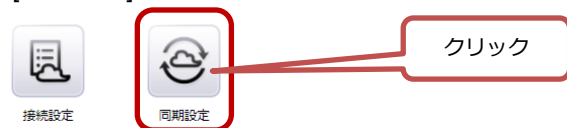
前ページから続けて作業をされる方は
[ホーム画面]に戻ってください

- 同期設定の場合、本製品がデータの更新を認識し、同期を開始するまでに時間がかかることがあります。データの更新チェックは、チェックのたびに同期対象内のすべてのデータを対象とします。そのため、ファイル・フォルダー数が少量であれば数分程度で完了しますが、非常に多い場合は長時間かかることがあります。
- 同期設定の場合、同期動作は設定した[更新確認間隔]のタイミングに実施されます。
- 同期設定において、複数の共有フォルダーを同期対象としている場合、同期動作は共有フォルダーごとに順番に実行されます。
- 同期設定の場合、同じ同期対象（共有フォルダーや接続設定とサブフォルダーの組み合わせ）を複数指定することはできません。
- 同期設定の場合、本機能を有効にした共有フォルダー内のファイルを直接編集すると、編集集中に作成された一時ファイルがアップロードされたり、そのアップロードがエラーとなる場合があります。
- 同期する前に本製品の時刻設定をNTP同期有効（毎日同期有効）に設定してください。時刻がずれると正常に同期できなくなります。

① [クラウドストレージ]をクリック



② [同期設定]をクリック



③ [追加]をクリック



- ⑤ 共有フォルダーとAWS上のバケットを同期するための情報を入力
本項では、NAS内の共有フォルダー「folder1」のデータを、Amazon S3のバケットに対してアップロードする片方向同期について説明します。

The screenshot shows the '同期設定' (Sync Settings) interface. The configuration is as follows:

- 1. ジョブ名: aws-sync
- 2. 同期方向: 片方向 (One-way sync)
- 3. 更新確認間隔: 1分 (Update check interval: 1 minute)
- 4. 除外ファイル/フォルダー: [ローカル] (Local)
- 5. 同期対象1: ローカル (Local)
- 6. 同期対象1: folder1 (Folder)
- 7. 同期対象2: Amazon S3 (Amazon S3)
- 8. 同期対象2: aws-test (Bucket name)
- 9. 保存 (Save)
- 10. 一覧へ戻る (Back to list)

※双方向に設定すると、Amazon S3上のデータが更新された際に、NAS上の共有フォルダーのデータが書き換えられます。(本手順書の設定では行いません)

- ⑥ ⑤で行った同期設定が表示されることを確認

The screenshot shows the '同期設定' (Sync Settings) screen with a list of jobs:

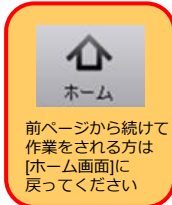
ジョブ名	操作
aws-sync	変更 削除

以後は、共有フォルダー（⑤の[5.共有フォルダー]）のデータが更新されるたびに、設定した更新間隔（⑤の[3.更新確認間隔]）に合わせて、Amazon S3上のバケットに同期が行われます。

以上をもって「同期」の設定は完了です。

■共有フォルダーからAmazon S3に対してデータコピー

- データコピーは、共有フォルダー内のファイルを同一のツリー構成をそのままに、設定したスケジュールに沿って、コピーする機能です。※履歴は残せません。



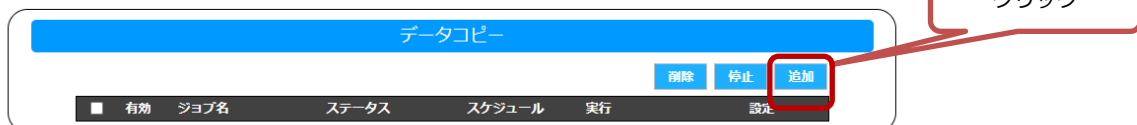
① [データバックアップ]をクリック



② [データコピー]をクリック



③ [追加]をクリック



④ データコピージョブを設定

設定例：共有フォルダー「folder1」のデータを月曜日から金曜日の23:55にバケットに対してデータコピーする場合

1. ジョブ名※を入力
※管理者が判別しやすい名前に入力することをお勧めします。
2. [有効]をクリック
3. データコピーを開始する[曜日][時刻]を指定
4. [ローカル]を選択
5. Amazon S3と連携したい[共有フォルダー名]を選択
6. [Amazon S3]を選択
7. P14・15「⑤Amazon S3の接続設定をする」で作成した[接続情報]を選択
8. バケット名を入力
9. クリック
10. クリック

本設定における動作

※以下では、「データコピー元=NAS上の共有フォルダー」「データコピー先=Amazon S3上のバケット」としてご説明いたします。

- データコピー元に存在するデータが、データコピー先に存在するデータより新しい場合
⇒スケジュール設定に従って、データコピー先のデータが上書きされます。

- データコピー元のデータを削除しても、データコピー先に存在するデータ
⇒データコピー先のデータは削除されません。

※データコピー元の共有フォルダーのデータの削除に合わせて、データコピー先のデータを削除する場合は、**[データコピー先に無いファイルを削除する]**を有効にしてください。

設定された「組み合わせ」が表示されます。

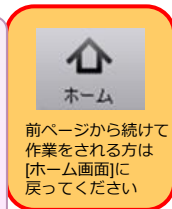


以降は、④で設定したスケジュールに沿って、NASのデータがAmazon S3のバケットに対して、共有フォルダ上で変更された差分データのみコピーされます。

以上をもって共有フォルダからAmazon S3に対するデータコピーの設定は完了です。

■共有フォルダーからAmazon S3に対してバックアップ

- バックアップは、共有フォルダー内のファイルを別の場所に世代的に残す機能です。
- ・バックアップ先がAmazon S3 の時は常にフルバックアップになります。Amazon S3側の使用容量にお気を付けてください。
- ・バックアップジョブは共有フォルダー1つに対して1個作成してください。
- ・NASに作成可能なバックアップジョブは7個です。



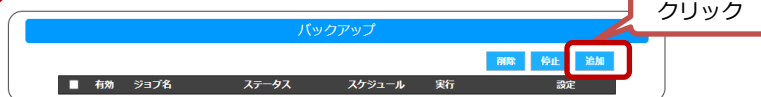
① [データバックアップ]をクリック



② [バックアップ]をクリック



③ [追加]をクリック



④ バックアップのジョブを設定

設定例：共有フォルダー「folder1」のデータを月曜日から金曜日の23:55に
Amazon S3上のバケットに対して、5個の履歴を残すバックアップを行う場合
(ジョブ名：aws-backup-test)

1. ジョブ名※を入力
※管理者が判別しやすい名前にするをお勧めします。
2. [履歴数]を指定
3. [有効]をクリック
4. バックアップを開始する [曜日][時刻]を指定
5. [ローカル]をクリック
6. Amazon S3と連携したい [共有フォルダー名]を選択
6. [Amazon S3]を選択
7. P14・15 「⑤Amazon S3の接続設定をする」で作成した [接続情報]を選択
8. バケット名を入力
9. クリック
10. クリック

設定された「組み合わせ」が表示されます。

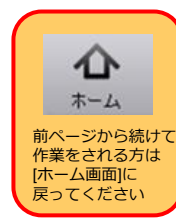


以上をもって共有フォルダーのデータをAmazon S3にバックアップする設定は完了です。

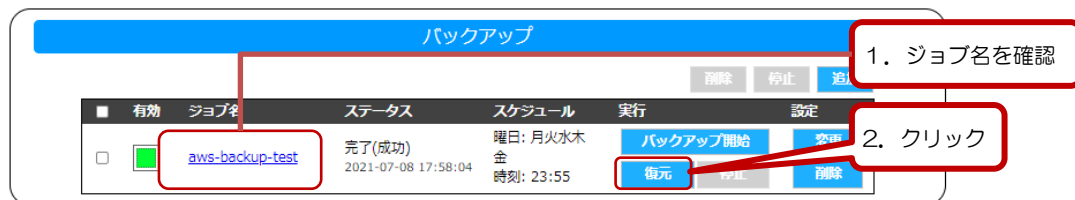
参考：バケット内のバックアップデータから特定の日付のデータをNASの共有フォルダーに復元する場合

ユーザーによる誤消去やランサムウェア被害などで共有フォルダーのNAS上のデータが「一部」または「すべて」失われた際にご活用ください。

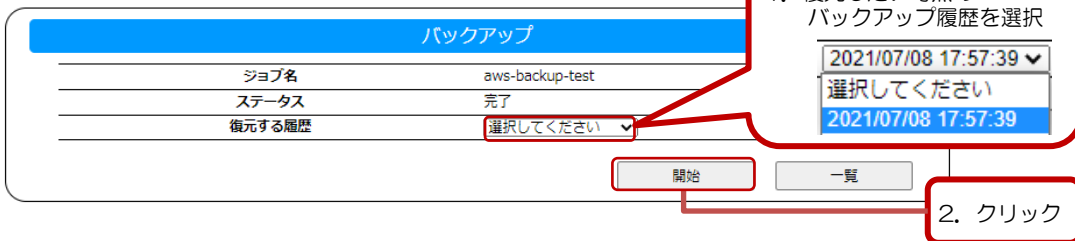
- ① [データバックアップ] ⇒ [バックアップ]の順にクリック



- ② 復元したいジョブ名を確認の上で[復元]をクリック



- ③ 復元したい時点のバックアップ履歴を選択

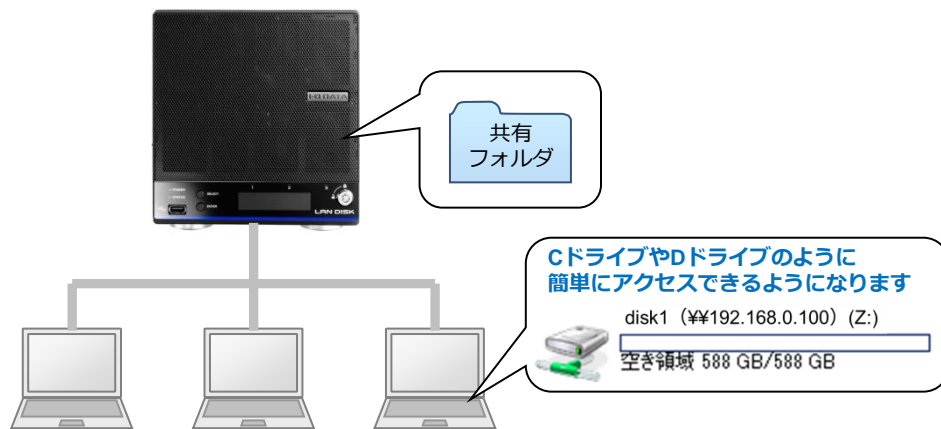


以上をもってバケット上のバックアップデータを共有フォルダーを復元するための設定は完了です。



- ・バックアップ履歴と同じデータが復元先の共有フォルダーに存在する場合、データは上書きされます。
- ・復元先の共有フォルダーに、バックアップ履歴時に存在しないデータが存在する場合は、削除されません。

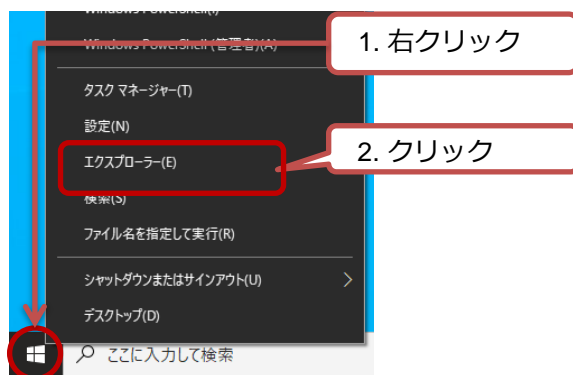
NASの共有フォルダーをPCにマウントする



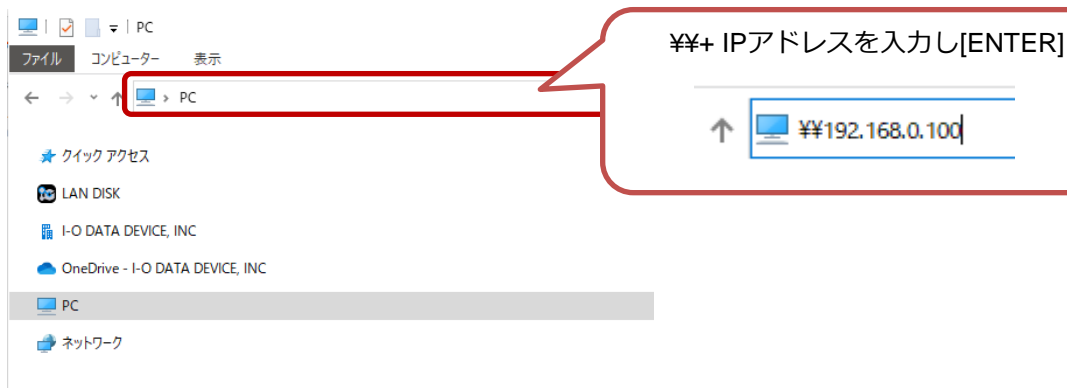
ネットワーク上のPCからNASの共有フォルダに簡単にアクセスできるように『マウント設定（ローカルディスクのようなドライブ名を割り当てる設定）』を行います。

本書では「Windows 10」「共有フォルダーはアクセス権の設定が無い」「NASのIPアドレスが[192.168.0.100]」である場合を想定しています。

- ①「エクスプローラー」をクリック



- ②[エクスプローラー]のアドレスバーに「¥¥+ IPアドレス」を入力し[Enter]キーを押す。



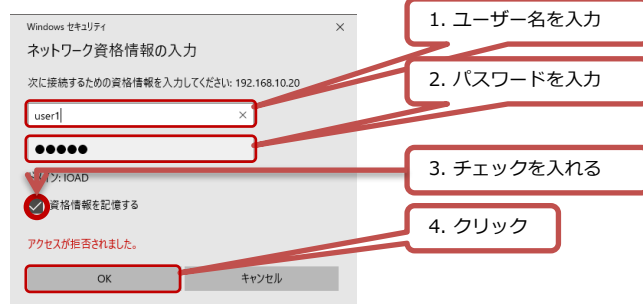
③マウントしたい共有フォルダーに対して、[ネットワークドライブの割り当て]を設定



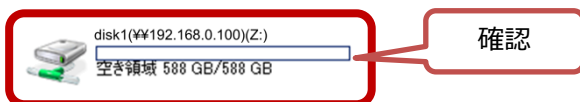
③PC上で使用されていないドライブ名を選択し、[完了]をクリック



アクセス権の設定された共有フォルダーをマウントした場合、[右の画面が表示されます。その際は、[ユーザー名][パスワード]欄に、共有フォルダーにアクセス可能なユーザー名とパスワードを入力してください。



④エクスプローラーを開き、マウントされている事を確認。



以上をもってNASの共有フォルダーをPCにマウントする設定は完了です。

次回からはこちらのアイコンをダブルクリックするだけで共有フォルダにアクセスが可能です。

Amazon S3から新しいNASにデータを復元する方法

本項目では、工場出荷時状態・修理・初期化などのデータや設定が行われていないNAS（以降の説明では「新しいNAS」で表記を統一）に対して、Amazon S3上にバックアップしたデータを復元する際の手順をご紹介します。

以下のケースに分類しましたので、お客様のケースに合わせてご対応ください。

なお、本項目の方法で行われるのは「データの復元のみ」です。
各種設定およびユーザーやグループ・共有アクセス権の設定につきましては、復元されませんので、改めて設定し直してください。

◆ Amazon S3から新しいNASにデータを復元するまでの流れ

- (1) システム管理者より、Amazon S3連携に必要な情報を確保し、以下のAmazon S3側の情報をシステム管理者様よりヒアリング

- | | |
|------------|------------------------------|
| ● アクセスキー | ・・・ Amazon S3におけるユーザー名のようなもの |
| ● シークレットキー | ・・・ アクセスキーのパスワードのようなもの |
| ● バケット | ・・・ Amazon S3側に設置したデータの保存先 |



バックアップを復元する際は、以下の情報も追加でシステム管理者様からヒアリングしてください。

- バックアップジョブ名 (P19を参照)

- (2) NASに対して、Amazon S3からのデータの復元先となる共有フォルダーを作成 ⇒ [P12](#)をご参照ください。



共有フォルダー名には、必ず同期元・データコピー元・バックアップ元で使用していた共有フォルダー名をつけてください。

- (3) NASに対して、Amazon S3連携パッケージの追加と接続設定を実施 ⇒ [P14](#)をご参照ください。

- (4) NASとAmazon S3との連携方法（同期／データコピー／バックアップ）を選択し、NASにそれぞれ復元するために設定

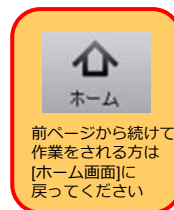
・各種設定方法につきましては以下のページで紹介しています。

- | | |
|----------|---------------------------|
| ● 同期 | ⇒ P25 を参照 |
| ● データコピー | ⇒ P26 を参照 |
| ● バックアップ | ⇒ P27 を参照 |

終了

■同期設定のされたバケットから新しいNASの共有フォルダーに対してデータを復元する方法

以下の手順を行われる前に、必ずP24の(1)～(3)を新しいNASに対して実施してください。



概要

準備

画面表示

IPアドレス

フォルダー

Amazon S3の設定

その他

Amazon S3からの復元

- ① [クラウドストレージ]⇒[同期設定] ⇒[追加]の順にクリック



- ② Amazon S3上のバケットから新しいNASの共有フォルダーにデータを同期(復元)するために設定

同期設定

1. 任意のジョブ名を入力 (Job name: aws-sync)
2. [片方向]を選択 (Sync direction: 片方向(同期対象1から2へ))
3. 必要に応じて[更新確認間隔] (フォルダー内の変更の監視時間)を設定 (Update check interval: 1分)
4. [Amazon S3]を選択 (Sync target 1: Amazon S3)
5. P14・15「⑤Amazon S3の接続設定をする」で作成した[接続情報]を選択 (Connection info: aws-test)
6. [バケット名]を入力 (Bucket name: aws- -test)
7. [ローカル]を選択 (Sync target 2: ローカル)
8. NAS上の[共有フォルダー]を選択 (Common folder: folder1)
9. クリック (Save button)
10. クリック (Back button)

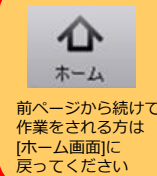
- ②で設定した時間(更新確認間隔)が経つと、Amazon S3から新しいNASの共有フォルダーに対して片方向同期が開始されます。

共有フォルダーへの同期がすべて完了しましたら、本設定(P24の④)は削除し、あらためて、AmazonS3との同期設定をおこなわれることをお勧めします。

以上をもってAmazon S3のバケットから共有フォルダーに対して同期データを復元する設定は完了です。

■データコピー先に設定されたバケットから新しいNASの共有フォルダーに対してデータを復元する方法

以下の手順を行われる前に、必ずP23の（１）～（３）を新しいNASに対して実施してください。



概要

準備

画面表示

IPアドレス

共有フォルダー

Amazon S3の設定

その他

S3からの復元

- ① [データバックアップ]⇒[データコピー] ⇒[追加]の順にクリック



- ② Amazon S3上のバケットから新しいNASの共有フォルダーにデータをコピー（復元）するために設定（下記設定は、管理者による手動操作での復元方法の紹介です）

1. ジョブ名※を入力
※管理者が判別しやすい名前に入することをお勧めします。

2. [無効]をクリック

3. [Amazon S3]を選択

4. P14・15「⑤Amazon S3の接続設定をする」で作成した [接続情報] を選択

5. [バケット名]を入力

6. [ローカル]を選択

7. コピー先の [共有フォルダー] を選択

8. クリック

9. クリック

- ③ [一覧]上でジョブ名を確認して[データコピー開始]をクリック

クリック

有効	ジョブ名	ステータス	スケジュール	実行	設定
<input type="checkbox"/>	AWS⇒NASデータコピー	未実行	曜日: 時刻:	データコピー開始	変更 削除

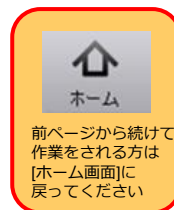
- ③で設定した時間（更新確認間隔）が経つと、Amazon S3から新しいNASの共有フォルダーに対してデータコピーが開始されます。

共有フォルダーへの同期がすべて完了しましたら、本設定（P25の④）はいったん削除し、あらためてAmazonS3との同期設定をおこなわれることをお勧めします。

以上をもってAmazon S3のバケットから共有フォルダーに対してデータコピーのデータを復元する設定は完了です。

■バックアップ先に設定されたバケットから新しいNASの共有フォルダーに対してデータを復元する方法

以下の手順を行われる前に、必ずP23の（１）～（３）を新しいNASに対して実施してください。



概要

準備

画面表示

IPアドレス

共有フォルダー

Amazon S3の設定

その他

Amazon S3からの復元

- ① [データバックアップ]⇒[バックアップ]⇒[追加]の順にクリック



- ② Amazon S3上のバケットにあるバックアップデータを新しいNASの共有フォルダーに復元するために設定

注! 本設定では、P19で設定したバックアップジョブを一部の項目を除き丸ごと再現してください。

		P19の設定値	P26の設定値
ジョブ名		aws-backup-test	左に同じ
履歴数		5	「5」以上または「0」に設定※1
スケジュール設定		有効	無効※2
バックアップ元	対象種別	ローカル	左に同じ
	共有フォルダー	folder1	左に同じ
	サブフォルダー	空欄	左に同じ
バックアップ先	対象種別	Amazon S3	左に同じ
	接続情報	P13・14の接続情報	左に同じ
	バケット名	P12でシステム管理者にヒアリングしたバケット名	左に同じ
	サブフォルダー	空欄	左に同じ

※1 バックアップ設定時（P19）の値より履歴数を多く設定することで、手違いでバックアップ操作をした際に、バケット側のデータを削除することを防ぎます。（「0」に設定すると、バックアップの履歴数が無制限になります。）

※2 スケジュール設定を無効にすることで、システム管理者の意図しないタイミングでのバックアップによるバケット側のデータ消失を未然に防ぎます。

設定例は次ページで紹介

設定例：バケット「aws-test」のデータを、新しいNASの共有フォルダー「folder1」の復元するための場合（設定値はP26を参照）

バックアップ

1. ジョブ名を入力

2. [履歴数]を0に指定

3. [無効]をクリック

4. [ローカル]をクリック

5. Amazon S3と連携したい [共有フォルダー名]を選択

6. [Amazon S3]を選択

7. P14・15「⑤Amazon S3の接続設定をする」で作成した [接続情報]を選択

8. バケット名を入力

9. クリック

10. クリック

ジョブ名: aws-backup-test

履歴数: 0

スケジュール設定: 無効

オプション: ローカル

バックアップ元: 対象種別: ローカル, 共有フォルダー: folder1

バックアップ先: 対象種別: Amazon S3, 接続情報: aws-test, バケット名: aws-test

一覧へ戻る 保存

③ ②で作成した復元したいジョブ名を確認の上で[復元]をクリック

バックアップ

1. ジョブ名を確認

2. クリック

有効	ジョブ名	ステータス	スケジュール	実行	設定
<input type="checkbox"/>	aws-backup-test	完了(成功)	曜日: 月火水木 金 時刻: 23:55	バックアップ開始 復元	変更 削除

④ 復元したい時点のバックアップ履歴を選択

バックアップ

1. 復元したい時点のバックアップ履歴を選択

2. クリック

ジョブ名: aws-backup-test

ステータス: 完了

復元する履歴: 選択してください

2021/07/08 17:57:39

選択してください

2021/07/08 17:57:39

開始 一覧

④の[開始]のクリックをもって、Amazon S3上からのデータ復元が始まります。

以上をもってバケット上のバックアップデータを共有フォルダーを復元するための設定は完了です。

■ [バックアップからの復元方法：番外編]

従来の設定（P19）と同じバックアップジョブを作成した（P26②）にもかかわらず復元できなかったときの対処方法

本項目では、バケットにバックアップされたデータをデータコピーで新しいNASの共有フォルダーにコピーする方法です。

- ① Amazon Web Serviceのコンソールページにログインいただき、[S3]のバケット一覧のページを表示した後、以下の内容を確認（詳細はAmazon S3担当者様にご確認ください）

The screenshot shows the Amazon S3 console interface. It is divided into three main sections: 'アカウントのスナップショット' (Account Snapshots), 'バケット (37) Info' (Buckets), and 'オブジェクト (1)' (Objects). Red callouts with numbers 1 through 5 point to specific elements in the interface:

- 1.** Points to the bucket name 'aws-test' in the bucket list.
- 2.** Points to the bucket name 'aws-test'.
- 3.** Points to the object name 'aws-backup-test/' in the object list.
- 4.** Points to the object name 'aws-backup-test/'.
- 5.** Points to a list of folders with numeric prefixes: '20210718154551/', '20210718155133/', and '20210718155428/'.

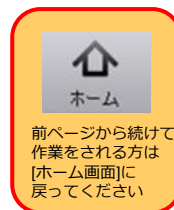
Additional text boxes provide instructions:

- Callout 1: バックアップ先に指定したバケット名があることを確認（メモしてください）
- Callout 3: バックアップジョブ名と同じオブジェクトがあることを確認（メモしてください）
- Callout 5: 数字の羅列されたフォルダーは、バックアップ時に設定した履歴数に応じたフォルダー名です。数字が大きくなるほど最新のデータになります。（復元したい時点の数字の羅列をメモしてください）

①で確認する内容は以下の3つです。

- (1) バケット名 (1.)
- (2) バックアップジョブ名 (3.)
- (3) バックアップ履歴を表す数字の羅列 (5.)

- ② [データバックアップ]⇒[データコピー]
⇒[追加]の順にクリック



- ③ Amazon S3上のバケットから新しいNASの共有フォルダーにデータをコピーするために設定
(下記設定は、P28①の情報をもとにしたバックアップデータからのデータコピー設定)

1. ジョブ名※を入力
※管理者が判別しやすい名前に入
ることをお勧めします。
2. [無効]をクリック
3. [Amazon S3]を選択
4. P14・15「⑨Amazon S3の
接続設定をする」で作成した
[接続情報]を選択
5. [バケット名] (P29①の (1))
を入力
6. [サブフォルダー名]を入力
※下記参照
7. [ローカル]を選択
8. コピー先の[共有フォルダー]
を選択
9. クリック
10. クリック

サブフォルダー名（上記6.）の入力規則
サブフォルダー欄にはP29①でメモした文字を以下の形に組み合わせて入力します。

「バックアップジョブ名」 + 「¥（NASの設定画面上では表記上は「/」）」
+ 「バックアップ履歴を表す数字の羅列」

（入力例）バックアップジョブ名が「aws-backup-test」で
バックアップ履歴を表す数字が「2021071855428」の場合
⇒キー入力上は「aws-backup-test¥2021071855428」となり、
NASの設定画面（P30③のサブフォルダー項目）では
「aws-backup-test/2021071855428」となります。

④

有効	ジョブ名	ステータス	スケジュール	実行	設定
<input type="checkbox"/>	AWS⇒NASデータ コピー	データコピー開始	曜日: 時刻:	停止	変更 削除

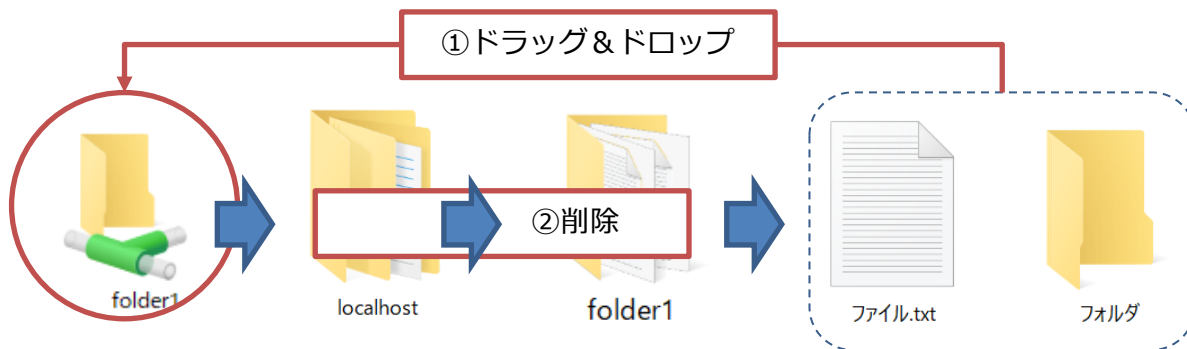
なお、P30の④実行後のデータコピー先となった共有フォルダーは、以下のように本来使用しているフォルダー構成と異なる[バックアップ設定のフォルダー]の状態で作成されています(図1)。

図1 P29④実行後の共有フォルダー内



したがって、作業の最終工程は「ユーザーが作成したフォルダーやファイル」を共有フォルダーに移動(図2)していただければ作業は終了です。(データ移動後はLocalhost以下の階層フォルダーは削除いただいて構いません。)

図2 共有フォルダーの構成をNAS運用時の状態に戻す



以上で、[バックアップからの復元方法：番外編]は完了です。

◆ Amazon S3連携手順デモ動画公開中

本書P16(同期バックアップ)、P25(同期リストア)



<https://youtu.be/gZh6-VR0wCk>